

粟田山 粟田口といふ所也、三條通の東あふ坂に近し、十禪寺より花頂院のあたりをいふといへり、

うきめをばよそめとのみぞのがれ行く雲のあはだつ山のふもとに

山階里 郡の名也、粟田口より相坂へ行間、四の宮など、いふ所有

音羽山 相坂の關より南に有と云 相坂の笥の水に流るゝは音羽の山の紅葉なりけり

花山 清水寺の東也、遍昭の舊跡なり、また山科の内に鏡山といふあり、花山北也、

栗栖野 伏見の東醍醐の西也、

見わたせば若なつむべく成にけりくるすの小野の萩の焼原

篠の隈 山階のうちには有、京より二里あまりなり、

清水寺 くはしく佛閣の所にしるせり、

日吉の社 神社の所にくはしく有、

稻荷 神社の所に有、

深草山、野 京よりは辰巳のかたなり、いなりの山の續也、

伏見山 深草の南里續也、乗功法師のうたに、

冬の夜のさむけき月にかずみえてふしみの澤にわたるみづどり

木幡山 伏見の東なり、

笠取山 醍醐の南木幡の東也、大山なり、

宇治の川、里 京より辰巳の方三里也、水上は近江の水海より流落て、末は淀川へ落る、川は北へ

流れて、橋は東西にかけたり、山吹の瀬、横の島、橘の小島が崎、皆同所の名所なり、

竹田河原 淀より東、伏見方也、